

# 古文 読解問題 「紫式部日記」 若宮誕生・うきたる世」①

十月十余日までも、御帳出でさせ給はず。西のそば<sup>ア</sup>なる御座に、夜も昼も候ふ。①殿の、夜中にも曉にも参り給ひつつ、御乳母の懷をひき探させ給ふに、うちとけて寝たるときなどは、何心もなくおぼれておどろくも、<sup>②</sup>いといとほしく見ゆ。心もとなき御ほどを、わが心をやりて、ささげうつくしみ給ふも、ことわりにめでたし。あるときは、わりなきわざしかけ奉り給へ<sup>ィ</sup>るを、御紐ひき解きて、御几帳の後ろにてあぶらせ給ふ。「あはれ、この宮の御尿に濡るるは、うれしきわざかな。この濡れたる、あぶるこそ、思ふやうなる心地すれ。」と、喜ばせ給ふ。

中務の宮わたりの御ことを、御心に入れて、そなたの心寄せある人とおぼして、語らはせ給ふも、まことに心の内は、<sup>③</sup>思ひあたること多かり。

行幸近くなり<sup>ウ</sup>ぬとて、殿の内をいよいよつくりみが<sup>④</sup>せ給ふ。よにおもしろき菊の根をたづねつつ、掘りて参る。色々うつろひたるも、黄なるが見どころあるも、さまざまに植ゑ立てたるも、朝霧の絶え間に見わたしたるは、げに老いもしぞき<sup>エ</sup>ぬべき心地するに、なぞや。まして、思ふことの少しもなのめなる身ならましかば、すきずきしくもてなし、若やぎて、常なき世をも過ぐしてまし。めでたきこと、おもしろきことを見聞くにつけても、ただ思ひかけたりし心の引く方のみ強くて、もの憂く、思はずに、嘆かしきことのまさるぞ、いと苦しき。

<sup>⑤</sup>いかで、今はなほ、もの忘れしなむ、思ひがひもなし、罪も深かなりなど、明けたてばうちながめて、水鳥どもの思ふことなげに遊び合へるを見る。

## ⑥ 水鳥を水の上とやよそに見む我もうきたる世を過ぐしつつ

かれも、さこそ心をやりて遊ぶと見ゆれど、身はいと苦しかんなりと、思ひよそへ<sup>オ</sup>らる。

問一、次の「紫式部日記」に関する問いに答えなさい。

(1) 次の「紫式部日記」について説明した文章の空欄に入る言葉を選択肢から選びなさい。

「紫式部日記」は(①)の頃に、中宮(②)に仕えていた紫式部によって書かれた(③)文学です。宮中での出来事、宮中を出た後の「源氏物語」を書いているときの出来事について書かれており、「紫式部日記」を絵巻にした「紫式部日記絵巻」が鎌倉時代に作られています。

ア. 平安時代前期    イ. 平安時代中期    ウ. 平安時代後期    エ. 定子    オ. 彰子  
カ. 物語    キ. 説話    ク. 日記

(2) 「紫式部日記」と同じ時代に書かれた作品を次の選択肢から2つ選びなさい。

ア. 和泉式部日記    イ. 十六夜日記    ウ. 更級日記    エ. 弁内侍日記

問二、傍線部ア～オの助動詞の意味を答えなさい。

問三、傍線部①「殿」が指している人物として正しいものを次の選択肢から選びなさい。

ア. 藤原道長    イ. 藤原頼通    ウ. 藤原伊周    エ. 藤原定家    オ. 紫式部

問四、傍線部②「い」とほしく見ゆ」の説明として最も適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア. 殿が、乳母に抱かれたまま無邪気に驚く宮の様子を見て、いとおしく思っている。  
イ. 殿が、参上した自分に対する宮の成長した立ち振る舞いを見て、誇らしく思ってる。  
ウ. 殿が、安心して眠っていた宮が突然起き乳母が困惑している様子を見て、不思議に思っている。  
エ. 殿が、宮の世話に追われている乳母の疲れた様子を見て、とても気の毒に感じている。

問五、傍線部③「思ひゐたること多かり」とあるが、紫式部はどのようなことに思案しているのか答えなさい。

問六、傍線部④「せ給ふ」の文法的説明として適切なものを次の選択肢から選びなさい。

ア. 尊敬語で、紫式部から殿への敬意を表している  
イ. 尊敬語で、紫式部から中務の宮への敬意を表している  
ウ. 謙譲語で、紫式部から殿への敬意を表している  
エ. 謙譲語で、殿から紫式部への敬意を表している

問七、傍線部⑤「いかで、今はなほ、もの忘れしなむ、思ひがひもなし」を現代語訳しなさい。

問八、傍線部⑥「水鳥を水の上とやよそに見む我もうきたる世を過ぐしつ」に使われている表現技法を次の選択肢から選びなさい。

ア. 枕詞    イ. 序詞    ウ. 掛詞    エ. 縁語    オ. 押韻

読解問題 「蜻蛉日記 くらつろひたる菊・町の小路の女」 ① 解答・解説

問一、 (1) ① イ ② オ ③ ク ④ コ

(2) ア・ウ

…イ・エは鎌倉時代の作品

問二、 ア、 断定

イ、 完了

ウ、 完了

エ、 強意

オ、 自発

問三、 ア

問四、 エ

問五、 中務の宮が紫式部に心を寄せていると殿（道長）が思って話すこと

問六、 ア

問七、 どうにかして今は、やはり、物忘れしてしまおう、思いかいもない

問八、 ウ・エ

（この句の修辞に関しては様々な解釈があるので学校の説明に従うようにしてください）